柏市地方創生推進交付金事業 評価シート				
番号	都市との共生による新たな「農村地域」創出事業			
担当部署	経済産業部 農政課	担当者	阿藤・大島・音喜多	連絡先 04-7167-1143
目的	都市近郊の立地性と豊かな自然環境が共存する地域特性を活かした、「農業と観光の融合による体験のまち」を実現させるために、「地域内ネットワークの形成」、「地域コンテンツの作成」、「情報発信」、「推進体制の構築」に関する各種取り組みを実施し、手賀沼周辺地域全体を活性化させることを目的とする。			
経費概要	・委託料19,995,250円(手賀沼アグリビジネスパーク事業戦略プラン推進委託) ・委託料14,971,000円(手賀沼周辺地域交流促進事業)	交付事業に要する経費	34,966,250	
(16)ページ	手賀沼・東部地域流動人口	基準値	51,500 (661,300)	目標値 56,000 (760,000)
本事業における重要業績評価指標	指標	指標値	実績値	達成度(%)
	指標①	道の駅しようなんの経済効果	595,275千円	529,889千円 89.02%
	指標②	地域交流拠点の来場者数	1,180千人	917千人 77.71%
	指標③	農業後継者世帯数(沼南支所管内)	153世帯	159世帯 103.92%
事業効果(自己評価)	○	①地方創生に非常に効果的であった		
		②地方創生に相当程度効果があった		
		③地方創生に効果があった		
		④地方創生に効果がなかった		
事業概要(進捗)	【時系列で記入】 R2.4～: 事業広報・PR(地域への情報発信としてチラシ配布、協議会HPのリニューアル検討、SNS活用) R2.4～: ネットワーク形成として柏駅から道の駅しようなんへシャトルバス運行(日祝運行 往路4便、復路5便/日) R2.8～: 道の駅ブランドの推進(パッケージデザイン検討等 8～3月まで計5回)、新商品開発 R2.5～: 体験プログラムの企画・運営支援(手賀沼ひまわりクラブ5～12月計 6回、小学校向け稲刈り体験・芋掘り体験 9月・10月計4校(モデル事業として無料招待) R2.8～: 拠点活性化に向けたイベントの開催(納涼祭り8月、テガヌマ・ウィークエンド「ヌマベクラブ」10～11月土日、生きもの観察会9～3月計7回等) R2.12～: DMO組織検討のため地元事業者や農業者へのヒアリングを実施、手賀沼まちづくりセンターの組織立ち上げ検討			
成果	前年に引き続き、道の駅しようなんと柏駅間の無料シャトルバス運行による新たなネットワーク形成の検証に加え、手賀沼周辺活性化の拠点である道の駅しようなんのブランディング推進のため、前年に作成したロゴマークを使い、道の駅拡張オープン後に使用する商品包装パッケージデザイン案の作成を行った。そのほか商品開発等を企画・実施し、集客・地域活性化を図った。 今年度は新型コロナウイルスの影響により、年度当初に予定していたイベントや、体験プログラムの担い手「テガヌマイスター」育成プログラム、農泊推進事業等については中止を余儀なくされた為、感染対策を講じた上で、屋外プログラムを中心に地域の活性化を図った。 各種コンテンツ企画・運営として、「手賀沼ひまわりクラブ 5月～12月」、コロナ禍で校外学習等が中止・縮小された小学校向けの体験プログラムとして「小学校向け稲刈り体験 9月計申込4校(内1校が台風の為中止)」等を実施した。 拠点利活用として、水辺の拠点(手賀沼フィッシングセンター)では東京大学を中心に今後30年を見据えた水辺の拠点利活用に関するマスターコンセプトを作成した。 イベントとしては「納涼祭 8月」、「テガヌマウィークエンド(ヌマベクラブ)10～11月」、「サバイバル冒険キャンプ11月」、「生き物観察会 9～3月」等を実施した。特にテガヌマウィークエンドでは「ヌマベクラブ」というイベント名で手賀沼周辺で活動している団体(SUP、カヌー、ヨガ、造園業者等)がそれぞれのプログラムを実施したが、今回のイベントを期に、これまで個別に活動していた9つの各市民団体等が集まり、イベント名であった「ヌマベクラブ」として組織化された。この中でアグリビジネスパーク事業推進協議会がヌマベクラブの事務局として、イベント時や各団体が手賀沼周辺を使用したい際に、一括で県や国に占用申請を行ったり、イベントの周知や募集を実施するなど、持続可能な水辺の拠点や手賀沼周辺が活用できるような仕組みが構築されつつある。また、各団体が顔の見える関係となることで、新たな交流が生まれ、コラボイベントの実施等、これまでに見られなかった発展が期待できるようになった。 また、これらを継続・発展させていくために、関係主体間の連携を促す場の運営や地域課題解決プロジェクトの実行といった、手賀沼地域のまちづくり全般の中間支援を担う組織・体制づくりを目指していくこととした。			
その他特記事項	手賀沼アグリビジネスパーク事業における、中核施設としての道の駅しようなんの拡張計画が、地方創生の核となる特に優れた企画として認められ、道の駅しようなんは、平成30年度に千葉県内4番目となる国土交通省の重点「道の駅」に選定された。 本事業の核拠点となる道の駅しようなん再整備工事について、遅れ(当初予定R2.3→R3.11)が生じたことから、KPI指標の達成度が低くなっている。なお、拡張部のオープンは今和3年12月を予定し、既存部のリニューアルオープンを令和4年4月に予定している。 一方で、もう一つの拠点である水辺の拠点については、来場者数が着実に伸びている。(H30:22,060人⇒R1:27,183人⇒R2:27,711人 ※R2は4月初旬から～6月休業した上の数値) また、新型コロナウイルスの影響により、アウトドア需要の増加やマイクロツーリズムといった身近な地域での需要が生じてきている。今年度の取組から、コロナ禍であっても、身近な場所での体験(マイクロツーリズム)ができることが手賀沼の強みであることが再確認できたため、今後も地元の子育て世代を中心としたニーズや要望を反映させながら、本地域の地方創生に繋げていきたい。			
柏市地方創生総合戦略評価委員会による評価				
KPIについて		意見		
	①総合戦略のKPI達成に有効であった			
	②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない			